

## 薬物療法学

《担当者名》教授 / 泉 剛

## 【概要】

薬物療法学 では、てんかん、統合失調症、うつ病、パーキンソン病や脳血管疾患などの様々な中枢神経系の疾患の病態生理、薬物治療、治療薬物の薬理作用について、機能形態学的、病態生理学的知識に基づいて体系的に学ぶ。また、代表的な中枢神経作用薬の化学構造も例示する。

## 【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な中枢神経系疾患について病因・病態を理解する。  
中枢神経系疾患の薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	パーキンソン病 教科書：p146～151	パーキンソン病について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-5-1)～4) C-4-1-1)	泉 剛
2	統合失調症 教科書：p128～133	統合失調症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-5-1)～4) C-4-1-1)	泉 剛
3	うつ病、躁うつ病（双極性障害） 教科書：p136～141	うつ病および躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-5-1)～4) C-4-1-1)	泉 剛
4	不安障害、睡眠障害 全身麻酔薬 教科書：p95～99 教科書：p99～107, p134～136	不安障害および睡眠障害について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 全身麻酔薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-3-1)～3) D-2-5-1)～4) C-4-1-1)	泉 剛
5	てんかん 教科書：p122～128	てんかんについて、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-5-1)～4) C-4-1-1)	泉 剛
6	麻薬性鎮痛薬 がん終末期医療と緩和ケア 教科書：p107～118	麻薬性鎮痛薬の薬理および臨床適用を説明できる。 がん終末期医療と緩和ケアに関わる薬物とその使用方法について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-2-1)～4) D-2-17-1)～5) C-4-1-1)	泉 剛
7	脳血管障害 教科書：p151～154	脳血管疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		D-2-5-1) ~ 4) C-4-1-1)	
8	認知症 片頭痛 その他の神経疾患 中枢興奮薬 教科書：p120 ~ 121, p155 ~ 158	認知症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 片頭痛について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症、末梢神経障害など代表的な神経疾患について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D2-5-1) ~ 4) C-4-1-1)	泉 剛

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（筆記試験）（100%）で可否の判定を行う。

定期試験後は、試験問題の解答を、「講義資料ポータルサイト（g-drive）」および「北海道医療大学 e-ラーニング（Glexa）」にアップするので、学修に活用すること。

【教科書】

「パートナー 薬理学」南江堂

【参考書】

病気が見える vol.7 脳・神経 MEDIC MEDIA

【備考】

定期試験対策として「中間試験」または「定期試験対策テスト」またはその両方を実施予定

（成績評価対象外）

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の講義スライド並びに教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。

復習は、講義スライド、教科書、参考図書を参照しながら、講義スライドに添付してある練習問題を解くこと（50分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

D-2-2 鎮痛作用を有する薬物

- 1) 痛みの発生メカニズムを、生体の恒常性と関連付けて説明する。
- 2) 鎮痛薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 鎮痛薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4) 痛みの緩和における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-3 麻酔薬

- 1) 麻酔薬の作用メカニズムを、生理反応と関連付けて説明する。
- 2) 麻酔薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 3) 同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-5 中枢神経系、精神系の疾患と治療薬

- 1) 中枢神経系、精神系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-17 緩和医療と治療薬

- 1) がんに伴う疼痛や終末期症状のメカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2) 慢性疼痛(非がん性)、神経因性疼痛の発生メカニズムを生体の恒常性と関連付けて説明し、異常反応としての病態と関連付ける。
- 3) 治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 4) 治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)及びその対処法を関連付けて説明する。
- 5) 疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、

疾患へ適用する根拠を説明する。

C-4-4 標的分子に基づく医薬品の分類

1)化学構造に基づいて、医薬品と標的生体高分子の相互作用を説明する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

泉 剛 (医師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師としての実務経験をもとに、臨床に即した薬理学および薬物療法の知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している